

# デジタル技術の進展と これからの地方創生の可能性

東京大学大学院経済学研究科

柳川 範之

# デジタル技術の可能性が大きく広がる

- デジタル・オンラインを活用することで、  
時間と場所に囚われない働き方が可能に  
細切れの時間を活用が可能に  
一度に複数活動をすることが可能に
- リモートワーク、ワーケーション、  
多地域居住・他地域就労 が現実のものに
- 物理的距離の概念が変容
- 関係人口の概念が、一層重要に
- 地方創生にとって大きなチャンスが現れた

# 行動抑制を前提にすべきではない

- **コロナが終息し、行動抑制がなくなかった状態をイメージして、検討すべき**

**自由に県域を跨げる状況で、  
どこまでリモートを活用するか**

**一方、リアルを併用することで  
リモートの幅が広がる点も注目**

**どうしても、リアルに制約がかかって  
いる現状をイメージして議論を  
してしまいがち**

# 仕組みや制度が追いついていない

- **実態としての制度や仕組みが追いついていない  
簡単に換えられるものではないが  
人事制度や労務管理体制の変革  
組織内での役割分担・権限分担の変革**

**働き方の自由度を高めるうえでは不可欠**

- **兼業を前提とした社会保障の仕組み**

# 仕組みや制度が追いついていない

- **多地域居住を前提にした制度設計**  
たとえば、**多地域住民票 多地域納税**  
**今の技術を活用すれば不可能ではない**
- **二地域就労を促進させるための地域間移動の**  
**サブスクリプションサービス**
- **オンライン環境の整備**
- **オンライン教育**

# ゴールをどこに設定するか

- 地方創生は何を目指すのか、何を目的とするのか
- 手段がデジタル化・リモート化によって変化したことで、ゴール設定を改めて考える必要が
- 例えば、住民数が増えれば良いのか、関係人口が増えれば良いのか  
関係人口は、完全なリモート参加でも良いのか、リアルな生活実態がないといけないのか
- もちろん、目指すべきゴールは当然、各地域によって、まったく異なるそれぞれの地域で考える必要がある

# デジタルを活用し町づくり

- 一方では、  
よりダイレクトにデジタル技術を活用した、  
各地域での町づくりも可能に
- スマートシティ・スーパーシティの議論
- しかし、ここでもポイントは  
住民側のニーズをいかにくみ取り、それを技術や  
新しいサービスによっていかに実現させるかが重要
- デジタル技術はあくまでも手段でしかない
- 各地域が、  
どんな課題を解消し、どんな町づくりを目指すのかという  
目的設定が重要

# いかに仕事を創りだすか

- **多くの地域の地方創生にとって重要なのは  
関係人口を活用して  
いかにそこで新しい仕事を創りだすか  
ではないか**
- **なぜなら、過疎化や人口減少の大きな要因は  
そこに住んでいると仕事がなかったから**
- **本来、日本の各地域のQOLはかなり高い  
一定程度の仕事・所得が得られるならば、  
その地域で生活したいと考える人は多い**

# いかに仕事を創りだすか

- 居住人口を増やすこと、関係人口を増やすことは、もちろん重要だが、それだけがターゲットではないのでは
- かつてのイノベーション  
大企業や工場が集積することによって  
生まれた  
そこに波及効果もあった
- 現代のイノベーション  
多様な人、多様な知恵が集まることによって  
生まれる  
そこから仕事生まれ、波及効果も生じる

# いかに仕事を創りだすか

- **オンラインで参加者も含めて、いかに多様な知、多様な人材を集う仕掛けをつくるかが重要**  
必ずしも人数の多寡ではない  
必ずしも、地域間の取り合いにもならない
- **ただし、現段階での技術では**  
リアルに会う・リアルに信頼関係を構築することは、とても重要

**その一方、100%その地域でリアルな活動をしている必要はない**

# 地方創生の大きなチャンス

- これらの特性をいかして、  
オンラインを併用しつつ、  
リアルな相互作用を  
各地域でいかに生み出していくか  
そこに知恵を絞る意義と必要性がある
- コロナ禍によってみえてきた  
東京一極集中を是正し  
新たな地方創生を実現させるチャンス